

【巻頭言】

学友会理事に就任して

松尾 悟 (59 回生)



1981年、工業高校電気科在学中の私は就職するか進学するかで悩んでいました。就職するなら関西電力か NTT(旧電電公社)の技術者、進学するならどんな学校があるのかと考えながら進路指導室で先輩方の進路を見ていました。その時初めて、京都放射線技術専門学校(現京都放射線技術専門学校)の存在を知り、さらに診療放射線技師という職業があることも知りました。それからは、合格するために英語 A、数学 I、物理 I、化学 I の 4 教科を一生懸命勉強したことを覚えています。無事に合格し学生生活が始まりました。学校は島津製作所三条工場の横にある小さな 3 階建ての建物でした。1 学年 50 名の定員で全学合わせても 150 名の小さな学校です。休み時間には学校玄関前の階段に座って、毎日のように先輩や後輩達と談笑していたことを思い出します。教官には山田先生、西谷先生、藤本先生の“三大先生”がおられ卒業までの 3 年間大変お世話になりました。3 名の専任教官が担当される授業以外は、著名な非常勤講師の先生方による授業でした。京都医療科学大学の遠藤学長もその中の一人です。教えに来て頂いているのに、出席確認の後は、こっそり教室から抜けて近くの喫茶店“アルペン”に屯しては、焼きそば、焼きそばカレー味“大”を友人たちと食していたことを懐かしく思い出します。在学中には学校名が京都放射線技術専門学校から京都医療技術専門学校へと変わりましたが、学校が園部に移転する前に私は卒業しております。卒業後は、名古屋大学附属病院そして滋賀医科大学附属病院で約 30 年間臨床業務に就き、2014 年 4 月から母校にて教鞭を執っております。本年度より学友会理事に任命されましたので足を引っ張らないように頑張ります。

さて、学友会に関しては滋賀支部役員として 16 年間活動しました。きっかけは、滋賀県で働きだして 10 年程度経過したころに、当時、滋賀支部長の原田幹男先生より“学友会の通信員になってくれない？”と誘って頂いたことからです。当初、支部総会は京都・滋賀合同で開催されており、隔年ごとに滋賀が担当する形でしたが、いつからか別々に毎年開催するようになりました。多くの学友会会員に集まってもらうために、JRA 栗東トレーニングセンターの見学、屋形船での花火大会、ミンガンからの花火大会(長浜市)など行いましたが、参加者は減少する一方でした。年配の会員の方々からは、“参加費は高くても催し物がある方が良い”という意見が多く、逆に若い会員の方々からは、“参加費が高すぎる、休みの日に半日以上縛られるのは嫌だ、勉強会多すぎ”という意見が多くありました。

確かに、滋賀県内、京都市内では毎週のように勉強会や研修会が開催されています。私自身、“先輩後輩が集う学友会まで勉強が必要なの？”と思うところがあります。支部総会を開催するには会場費が必要であり、企業に後援して頂くには勉強会や研修会の開催が必要というのが現状です。しかし、“勉強会がなくても先輩後輩が集う懇親会のみでも十分ではないのかな。”と、一つ疑問を投げかけて筆を置くことに致します。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

以上